

澤田庸三教授退任記念論集によせて

法政学会会長・法学部長 岡野 祐子

2016年3月末日をもって、私たちの深く敬愛する澤田庸三先生が本学を定年でご退職なさいました。先生のご在任中のご活躍と、法学部に対する多大なご貢献に心より感謝し、ここに『法と政治』の本号をご退任の記念論集として編集し、先生に献呈させていただきます。

澤田庸三先生は、関西学院大学法学部政治学科ご卒業後、本学大学院修士課程、博士課程へと進学され、1984年に本学の専任講師となられて以来、その後、助教授、さらに教授として、実に32年の永きにわたり、本学の教育・研究、学内行政にご貢献いただきました。先生の温厚で誠実なお人柄を慕う学生は多く、先生のゼミからは有為な人材を多く輩出しております。

先生のご専門は、特に19世紀のイギリス政治史であり、大学院博士課程在学中に公表された「ビクトリア時代初期の都市問題」（『都市問題研究』第29巻11号（1975年11月））を端緒として、以降、「エドウィン・チャドウィックの業績に関する序論的考察」（『法と政治』第28巻3・4号（1978年3月））、「1834年の救貧法改革と1848年の公衆衛生改革」（『法と政治』第30巻3・4号（1980年2月））など、多くのご論考を次々と発表してこられました。そしてイギリスへの2度の学院留学（1992年4月～1992年7月、1999年4月～1999年9月）においてさらにご研究を深められ、ご

退職の1年前にあたる2015年2月には、このテーマについての集大成ともいえる「1830年～1850年代イギリスの『救貧法改革と公衆衛生法改革』の再考」(『法と政治』第66巻4号)と題する研究ノートをまとめておられます。

澤田先生はまた、豊中市議会史、大津市議会史の記述編執筆委員としてご活躍なされ、さらには、新修神戸市史編集委員会行政編専門部会執筆委員も務められました。前二者については、それぞれ共著『豊中市議会史・記述編』(加藤一明編、豊中市議会、1990年5月)、『大津市議会史・記述編』(大津市議会編、大津市議会、1991年3月)として出版されており、先生のご研究による知見がわが国の市議会史にも活かされていることを見ることができます。

澤田先生は、2005年4月から2007年3月までの2年間、本学法学部長・法学研究科長を務められました。先生が本役職に就かれた時期はちょうど、関西学院大学が初めての外部評価を受けた年でもあり、2006年度の外部評価委員の来訪に向けて、2005年度には法学部および法学研究科の自己評価の提出書類作成、2006年度には外部評価委員の視察および面談、と初めての経験が続きました。戸惑うことも少なくなかった中、澤田先生が学部執行部を率いて陣頭指揮に当たられたことは、特筆すべきことと思います。

澤田先生は、2016年4月をもって本学の名誉教授とされました。ご退職後、教育の第一線からは退かれましたが、先生の末永きご健勝と今後のさらなるご活躍を心より祈念するところです。